6年社会「江戸の社会と文化・学問」

2026年11月11日（水）
6年1組　37名
指導者　前田　祐果

1. 単元名　江戸の社会と文化・学問

2. 指導について

本学年の社会科では、学習課題を捉え、それをもとに自分自身で調べたり、友達と話し合いながら調べたりして学習を進め、わかったことを全体で共有する、という形で学習を行ってきた。当初は、調べ学習に難しさを感じていた児童も見られたが、教科書に出てくる大切な事項や理解しにくい言葉の意味をあらかじめ全体で確認してから取り組むことで調べ学習への見通しが持てるようになり、徐々に自律して調べを進められるようになってきた。また単元の導入時に学習計画表を配り、いつ、どのような学習を進めるのかの見通しを持てるようにし、学習に対しての自己評価ができるようにしている。

調べ学習に関して、1学期は、様々な資料の中から必要な資料を見つけ出す力の定着を図るため、教科書や資料集を中心とした情報収集を行い、2学期からはインターネットも活用し、児童自身が多様な資料の中から資料を選択できるようにしている。現在では、1学期までの調べ学習の方法を活用する児童に加えて、動画を視聴して理解を深める児童や、動画と教科書を見比べながら事実を確認する児童など、自分に合った情報収集の方法を選択する児童が増えてきている。しかし、集めた情報をノートやスライドにまとめることに難しさを感じる児童が一定数いるため、Google Classroomを通じてうまくまとめている児童のノートやオクリンクプラスで作成したスライドをモデルとして共有したり、友達と協働して調べる協創学習の時間を設けたりして、学びを深められるよう支援している。

本単元では、江戸時代に町人を中心とする文化が栄え、新しい学問がおこったことを扱う。主な学習内容として、庶民の娯楽として親しまれた「歌舞伎」、庶民の暮らしや風景を描いた「浮世絵」、西洋の学問を研究し、医療や科学を発展させた「蘭学」、日本古来の考え方を探求した「国学」を取り扱う。この4つの事象を、児童がそれぞれの興味・関心に応じて事象を選択・追究し、町人を中心とする新しい文化の広がりや、実証的・批判的な視点を持つ新しい学問の芽生えについて捉えさせていく。さらに、これらの文化や学問が一部の武士だけでなく町人の間にも広く浸透し、人々の生活や意識を豊かにしていったこと、そしてそれが現代の日本文化や高い教育水準、近代化の基礎を築いたという歴史的価値に気づかせることができる、重要かつ価値ある単元である。

9月に学習した「今に伝わる室町の文化と人々のくらし」の単元において、グループ内で自分が調べたい事象（水墨画・石庭・茶の湯と生け花・能と狂言）を決め、分担して追究するジグソー学習を取り入れたところ、「調べた文化以外の室町文化の良さがわかった」や「また同じような方法でやってみたい」という肯定的な声が上がった。本単元においても、オクリンクプラスの「みんなのボード」を用いて、同じテーマで調べる児童同士が話し合いながら調べ学習を進めることとしている。こうした児童の協働的な学びへの意欲と、自ら学習方法を選択する力を生かし、主体的・対話的で深い学びへとつなげていきたいと考えている。

3. 単元目標

（1）江戸時代の歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、その背景として産業が発達したことなどから、町人文化が栄え、新しい学問がおこったことを資料を活用して具体的に調べることを通して理解するとともに、目的に応じた方法でわかりやすくまとめている。

（2）当時の百姓や町人のくらしの様子、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について追究し、産業が発達し、町人が力をつけてきたことや社会が安定したことと、歌舞伎や浮世絵などの文化が町人の間に広がり、国学や蘭学などの新しい学問が起こったことを関連付けて考えるとともに、考えたことをわかりやすく表現している。

（3）江戸時代の産業の発達により町人が力をつけてきたことで、町人の文化が栄え、新しい学問がおこったことについて、意欲的に調べ考えている。

4．指導計画（全6時間）

第1時　　江戸のまちの人々のくらし
第2時　　歌舞伎・浮世絵・蘭学・国学を調べよう①
第3時（本時）歌舞伎・浮世絵・蘭学・国学を調べよう②
第4時　　江戸の文化・学問を紹介しよう
第5時　　各地の産業の発展
第6時　　学習のふりかえり

5．本時の学習

○　歌舞伎・浮世絵・蘭学・国学について調べ、わかりやすくまとめる。

【読解力向上NARAプランにおける指導のポイント】

⑧言葉や文と、絵や図とを対応させて考えさせる。
⑮「～だから、～と考えられる。」のように原因や根拠をもとに思考させる。

【協創学習】

同じテーマを調べる友達と協力して、担当する文化・学問について詳しく調べる。

学習活動	指導の要点
1．本時の学習課題を確認する。	・次時に文化・学問の紹介をすることを伝え、自分にも相手にもよくわかる表現でスライドをまとめることを伝える。
2．本時のめあてをつくる。	
3．自分の担当の文化・学問に分かれ、調べ学習を進める。【協創学習】	・同じ事項を調べる児童で集まり、協創学習を行う。
4．本時の学習をふり返る。	・わかったことや考えたこと、疑問に思ったことを振り返る。